

国立研究開発法人森林研究・整備機構の令和4事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	農林水産大臣による令和4年度の総合評価が「A」評価であり、中期計画に対して業務が順調に進捗していると判断されたこと等を踏まえ、評価結果による特段の人事は行わなかった。
----------	---

2. 役員報酬への反映について

役員報酬への反映	農林水産大臣による令和4年度の総合評価が「A」評価であり、中期計画に対して業務が順調に進捗していると判断されたこと等を踏まえ、役員報酬の増減は行わなかった。
----------	--

3. 法人の運営、予算への反映について

大項目	令和4年度における主な指摘事項	令和5及び6年度の運営、予算への反映状況
研究開発の成果の最大化 その他の業務の質の向上 に関する事項	(研究開発業務(全体)) モニタリングデータ等の情報発信の推進や、ダイバーシティの推進に係る継続的な取組に期待する。	降水や溪流水等の水質、森林流域での降水量と流出量、森林微気象、積雪深のモニタリングを継続して基盤データの収集を行った。これらのデータについて、森林総合研究所ウェブサイトで公開に向けて整理を行った。竜ノ口山森林理水試験地（岡山市）における2011～2015年の日降水量・流出量データと十日町試験地における今冬の積雪深等のデータを公開した。FFPRI_FluxNet（森林総合研究所フラックス観測ネットワーク）の森林微気象データは国際的なネットワークサイトであるAsiaFlux Databaseでも公開・提供している。

		長期モニタリングにより得られた樹木個体群のデータを活用するプロジェクトを提案し採択されるなど、基盤データの積極的な活用を進めた。また、プレスリリースを行うとともに、シンポジウムを主催するなど、成果の社会還元に努めた。 ダイバーシティ推進に係るセミナー3件、展示1件を実施するとともに「不妊治療と仕事の両立」に関して理事長によるメッセージ発出や担当者の設置を行うなど、職員の意識啓発と職場の環境整備を進めた。外部の21研究機関・大学が参画するダイバーシティ・サポート・オフィスでは、懇話会を主催して機関間の情報共有を行った。
--	--	---

その他業務運営に関する	(施設及び設備に関する事項)	今中長期計画の施設及び整備に関する計画における研究開
重要事項	3 部門の連携や成果の社会実装としてエリートツリーの展示林や FICoN を通じた民間とのマッチングの取組は発展が期待できる。 中長期目標の達成とともに、新しい研究分野の取組や開拓も進める時期に来ている。 電力や物価高騰等に対しては相当な自助努力を行っているが、限度がある。森林・林業分野の発展のためには施設の老朽化対策や最新研究機器類の導入が欠かせないので、必要な予算の確保をお願いしたい。	発用施設の整備・改修等として、次の施設の整備を行った。 ○木質バイオマス変換新技術研究棟（研究所） 木の酒の普及に向け、木の酒の飲用における安全性の確認などを行う実証研究のため、温湿度管理や製造機械の自動制御が可能な製造施設を新築 ○原種苗木促成温室（東北育種場、関西育種場四国増殖保存園） 急激な木材需給の変化に対応可能な原木供給力の維持・拡大に向けて、成長等に優れたエントリーツリー等の原種苗木増産用の温室を整備